

平成 30 年第 6 回定例会一般質問通告事項

12 月 6 日 午 後	杉原孝一郎 議員（尾道未来クラブ）	質問方式：一問一答方式
	<p>1 急傾斜地崩壊対策事業の負担金免除を求める。について 広島県内 23 市町のうち、負担金を徴収しているのは 3 分の 1 の 7 市町に過ぎない。残念なことに尾道市は徴収市町に属している。そのためもあってか、尾道の災害復旧は、なかなか進まないとの評価もあります。 住みやすいまち、安全・安心なまちづくりを宣言している割には、市民に対する温かい施策が疎かになっているのではないか。 尾道市も、早急に県内の主流である急傾斜負担金を徴収しない自治体の方に参加すべきと思いますが、考えをお聞かせください</p> <p>2 行政における優先事業の選択は、市民の将来を見据えた計画的なものを最優先にすべきと思うが、市長の考えはどうか 商店街や住宅密集地での類焼火災に対しての無策、本年 7 月の豪雨土砂災害の後処理費用のたつき、子ども医療費の無料化を否定したが、すぐに訂正せざるを得なくなった迷走ぶりなど、市民を見据えた事業への対応が、極めて消極的です。 又、市民の安全を担保しなければならない老朽化した市民病院の建替えについては計画さえない。市民に寄り添ったまちづくりの基本姿勢を、お尋ねします</p> <p>(1) 優先事業の選択は、市民の将来を見据えた計画的なものが最優先すべきとの考えに対する市長の見解は (2) 火災跡地の復興に、調査した 2 市では強弱はあるにせよ、何らかの援助を行っている。なぜ尾道市は避けて通ることしか考えが及ばないのか (3) 尾道市として、長期展望の 10 年程度以内に、具体的な市民病院の建替え計画を載せるつもりはないか。イエスかノーで回答を</p>	

3 自治体の健全な組織のあり方の考えについて

オウム事件の井上死刑囚が「1人のカリスマを絶対的に正しいと信じることは間違いだった。自分も、絶対的に正しい人になりたいと思ってしまった」と、事件を振り返り、語っています。

自分たちのやること、言ったことは正しいと言い張る、一部幹部職員の言動に彼の言い分と重なるものを感じる。市の組織は上意下達の方通行から抜け出せない雰囲気を感じる。未だに上位者の支配性が根付いているが、今の時代、職員にとっても市民にとっても百害あって一利なし

(1) 市長の考える健全な組織の有り様とはいかなるもので、それが職員にどこまで浸透していると認識しているか